

論 文 要 旨

学籍番号	<input type="text"/>	氏 名	大澤 潤
論文題目： クリーンエネルギー自動車の普及に伴う経済波及効果分析			
<p>(内容の要旨)</p> <p>本論文は、環境配慮製品の一つであるクリーンエネルギー自動車 (CEV) の普及による経済的な影響の分析と経済面を考慮した国内における最適 CEV ポートフォリオの算出を通じ、企業の CEV 生産計画や政府の CEV 普及政策の策定の一助とすることを目的とする。</p> <p>従来、CEV の普及を考える場合、燃料消費量や CO2 排出量など環境面が主に研究対象となってきた。しかし本論文では、電気自動車 (EV) においてガソリン車 (GV) で使用されているエンジン部品が不必要になるといった GV や DV (ディーゼル車)、天然ガス車 (NGV) と各 CEV の部品構成の差異、それに伴う我が国の経済に与える影響に着目し、各 CEV の経済性の評価、そして政策の指針となる各車種の最適な販売台数について論じる。</p> <p>本論文は 4 章で構成されており、まず第 1 章では、温暖化対策において CEV の普及が期待される背景や既往研究の課題を述べ、CEV の普及計画を策定する上で CEV の経済性を考慮することの重要性を示す。</p> <p>第 2 章では、CEV の普及により生じる経済波及効果に焦点を当てる。具体的には、既往研究では考慮されていなかったトラックやバス、EV 以外の CEV といった要素を包含し、新たに再構成した産業連関表とその産業連関表を基に構築した経済波及効果モデルについて述べる。また、そのモデルを用いて各シナリオにおける経済効果を算出し、産業構造の変化を分析する。</p> <p>第 3 章では、CEV のポートフォリオ最適化について述べる。具体的には、既往研究では考慮されていなかった自動車産業における生産額や雇用といった要素を包含し、ステークホルダーの要求により整理した新たな最適化モデルについて述べる。また、そのモデルを用いて乗用車・トラック・バスを対象とし、国内自動車の最適ポートフォリオを算出し、各ステークホルダーの視点の違いや技術革新の変動によるポートフォリオの変化に対する分析結果を示す。</p> <p>第 4 章では、本研究の成果および得られた知見をまとめ、今後の課題について述べる。</p> <p>キーワード：クリーンエネルギー自動車，車種構成，最適化，産業連関表</p>			